

総会決議（案）

権力による隠ぺい、偽造、ウソ、ごまかしの政治を終わらせ、
一人一人が大切にされる教育を私たち国民の手に取り戻そう！

養護学校義務制実施から 40 年、今、学校は

40 年前までは学校に行きたくても行けなかった子どもたちがたくさんいました。「学校に行きたい、行かせたい」という本人、父母・保護者の願いが大きな運動となり、運動が実を結んだ養護学校義務制実施から 40 年がたちました。今、学校と教育はどうなっているのでしょうか？

障害のある子どもたちは、過大・過密の学校で、老朽化した校舎で学んでいます。教育予算は削られ、教職員の数も足りません。貧困な教育条件は、教育活動にも大きく影響しています。そのしわ寄せは、子どもたちに集中します。教職員は、子どもたちから目が離せない緊張状態での勤務を強いられ、余裕がありません。子どもたちの気持ちに寄り添いたくても寄り添えず、自分を責め、思い悩む青年教師の叫び。いろんなおかしさや矛盾に気づいていても、日々の仕事をこなすだけでクタクタになっているベテラン教師の叫び。近年、登校を拒む子どもや現場を去っていく仲間が増えているのも気になります。

息苦しい学校の背景に何が

学校現場に持ち込まれた一面的な「キャリア教育」や、子どもたちの行動を細かくルール化した「学校スタンダード」の押しつけ。それに適応できない子どもは、教育から排除されかねない状況です。子どもたちに「こうあるべき」を求め、「指導」という名の「管理」が学校現場に広がっています。どうして、こんなにも学校が息苦しい環境になってしまったのでしょうか？ 子どもたちと、私たちが苦しめている背景に何があるのでしょうか？ それは、経済と軍拡優先の政治を推し進める一方で、私たちの切実な要求には背を向け続けている安倍政権です。安倍政権は、安倍「教育再生」という名を借り、教育を自らの野望に利用しようとさえしています。

夢や希望があふれる学校を実現するために

私たちが願う学校は、一人ひとりが大切にされ、今を大事にして、自分を好きになれる学校です。そこには、やさしさや思いやり、安心や信頼、夢や希望といった思いがあふれます。そんな学校を実現するためには、すべての命を輝かすことのできる社会にしていくことが大切です。私たちには、受け身にならず、仲間と手をつなぎ、子どもたちを真ん中に学校と教育を語り、社会に発信し続けることが求められています。私たちは、今の厳しい情勢に一人では向き合うことは出来ません。しかし、私たちには、日々の実践と運動に誠実に向き合う組合の存在があり、そこに仲間がいます。思いと願いを寄せ合い、力に変え、立ち上がることが、未来の展望を切り拓きます。

仲間とともに立ち上がろう

権力の暴走は止まりません。しかし、多くの国民は不信感を持っています。そうした人たちと共同し、隠ぺい、偽造、ウソとごまかしの政治を終わらせましょう。その分水嶺となるのが 7 月の参議院選挙です。改憲発議を断じて許すわけにはいきません。後悔はしたくありません。仲間と手をつなぎ、立ち上がりましょう。「今の政治を変えたい」「憲法を活かし、誰もが大切にされる社会にしたい」、一人ひとりが主体者になることが大切です。踏み出しましょう。子どもたちと私たちの未来のために。その一歩が歯車を動かすことにつながります。

以上、決議します。